

令和元年度 第1回 岡山市本庁舎整備検討会 議事要旨

日時 令和元年8月7日(水) 10:00～

場所 岡山市役所 本庁舎議会棟3階 第1会議室

1 開会

2 議題

- (1) 市民説明会及び意見募集について
- (2) 本庁舎等整備基本計画について
  - ・ 検討の経緯
  - ・ 機能別整備方針
  - ・ 新庁舎に求められる性能
  - ・ 将来を見据えた庁舎整備
- (3) その他

3 閉会

1. 開会 総務局長あいさつ

森安総務局長：

昨年度は、基本構想の策定にあたって皆様から意見を頂き、3月には基本構想として取りまとめを行った。今回は、この基本構想の内容や基本理念などをさらに具体化させて基本計画として取りまとめ、その後の設計に反映させ、事業の具体化に向けて進めていきたい。

新庁舎は建設後、長い間にわたって市民に愛され、いざという時に頼れる拠点となる必要がある。皆様方の専門的な立場や市民としての立場、様々な立場からの意見を頂き、これを反映させながら計画を進めていきたい。

●資料確認

司会：

岡山大学大学院の中村様、岡山商工会議所の江尻様、NPO法人まちづくり推進機構のムラカミ様のご都合により欠席。岡山理科大学の後藤様は遅れて出席。

2 議題 (1) 市民説明会及び意見募集について

事務局：

<市民説明会及び意見募集について説明>

座長：

説明会には何人来られたか。

事務局：

50名程度。

(後藤会員着席)

## 2 議題 (2) 本庁舎等整備基本計画について

事務局：

<資料1、2、3、4に基づき説明>

——資料1 検討の経緯について——

会員：

将来的に来庁者の数はどれくらいになると想定しているのか。

事務局：

来庁される市民については、現在、コンビニ交付で住民票などを発行できるようになっている。まだマイナンバーカードの普及率は低いが、今後は普及が進んでいくと考えられる。マイナンバーの普及と国の進めている申請などオンライン化によって、何十年か先には来庁者がかなり減ることが想定される。

会員：

市民が市庁舎に来る理由がなくなるのではないか。

事務局：

相談業務などはオンライン上でも行えるようになるだろうが、フェイス トゥ フェイスでないと安心できない方などは庁舎に来ることが想定される。

——資料2 機能別整備方針について——

会員：

ICTを活用した窓口システムということで電子化が想定されているが、どのようなシステムを導入するかということと、物理的な空間のデザイン・設計は相当関係があると思う。検討が横断的に平行に進んでいるのか、現段階の状況で良いので教えて欲しい。

事務局：

資料の中ではスマートフォンを活用している事例を挙げている。自宅で情報を入力して、QRコードを持って窓口に行き手続きを行う。今後、外国人窓口では実証実験を行うことを予定している。チャットボットを用いた手続きは市川市で導入され、他市でも導入が始まっており、市民サービスの向上に繋がるようなものは取り入れていきたい。

新庁舎が整備されるのは7年後であり、それまでにICTはどんどん進化すると思われる。他都市の状況を見ながら、最終的にどのようなシステムを取り入れ、それによって窓口をどう作っていくかを継続して検討していく。資料の中では、7年後には少なくともこれくらいはできるのではないかと、という窓口のイメージ図を載せている。

会員：

デジタル化の優先度は一般市民のための窓口が高いのか、それとも業務上必要な届け出などのために来る事業者に対しての方が高いのか。事業者は月に何度も、頻繁に来ているのに対して、市民は一生に一度しかない届け出のために来る。どのようなエンドユーザーを想定し、どのような電子システムを導入することが優先順位として高いのかについても検討して欲しい。

事務局：

来庁者の割合は市民保険年金課が圧倒的に多く、繁忙期に市民を待たせてしまっている状況である。手続きの簡素化など、まずはこの状況を改善することを考えていきたい。使える技術は市民だけでなく、事業者や職員のためにも導入を考えていく必要があるが、AIやRPAなどの技術は発達している過程にあり、ハード面での調整も発生するため、7年後にどこまでできるかについて議論を継続していきたい。

会員：

市民にわかりやすい窓口を重要視して頂きたい。高齢者にとっては電子化することでかえって分かりにくくなる可能性もある。高齢者はスマートフォンではなく、従来の携帯電話を利用している人が多く、すぐには対応できない。

会員：

現庁舎には会議室が全然ないため、相談に行ってもカウンターでしか相談ができない。カウンターでは土木や都市計画で必要となる図面を広げての協議が難しい。

会議室を集約するのは市民が参加する会議や、大きな会議ではよいが、市民が相談で窓口に行くときに、対応できるスペースがあるとよい。他都市では円卓状の会議室もある。

事務局：

基準階のモデルレイアウトでオレンジ色の一部に塗られているエリアは、来庁者との打ち合わせで使えるエリアとしているが、声が周囲に聞こえにくいようにパーティションで囲われたスペースとして検討している。

会員：

ユニバーサルレイアウトとして事務机の写真が載せられているが、土木関係部署では図面などを広げられるようにしてほしい。現在は机の上に書類などが積みあがっており、図面を広げられるスペースがない。事務がしやすいように考えてほしい。

事務局：

近年は技術系も含めてIT化が進んでいる。たとえば民間の工事現場などでは、現場事務所に戻ることなくタブレットで図面を確認しながら職人などと打ち合わせをしている。

会員：

昨年の整備検討会でも、職員の働きやすさが話題に出たと思うが、今回の資料に挙げられているのは、どちらかという執務の効率を上げる視点だけである。職員がリフレッシュするような空間は考えないのか。民間のオフィスビルでは一般的となっている。狭い空間に職員を押し込まないような配慮をしてほしい。これから若い人材が集まらなくなる。

事務局：

職員の執務環境にゆとりをもたせて作業効率を高めるように配慮をしていきたい。ミーティングスペースは休憩時間にはリフレッシュスペースとしても活用できるように考えている。

会員：

新庁舎は大きな台風などの非常時に市民が駆け込みやすいようにしてほしい。新庁舎に來れば安心・助かるという場にしてほしい。

事務局：

新庁舎は避難所にはならないが、熊本市庁舎の事例のように、一時避難受け入れなどに対応できるようにエントランスホールなどを設計していく。

会員：

周辺道路・駐車場の整備について、事前に現状の交通状況をよく把握しておいてほしい。大供交差点は非常に混雑しており、地元住民は大変困っている。

事務局：

今回検討するにあたって交通量調査を実施している。周辺の交通に影響を与えないように計画をしていく。また、市民からも駐車場の位置が分かりにくいという意見が多いので、動線をわかりやすくして、迷って周辺を通行する車を減らしていきたい。

会員：

東京や大阪では公共交通を使えるが、岡山ではどこでも公共交通を使えるわけではない。岡山は車社会であり、自家用車の交通網についてしっかりと考えて欲しい。また、駐車場についても十分に確保してほしい。

事務局：

交通量調査に加え、駐車場の利用についても調査しながら検討していきたい。将来の交通のあり方については、都市整備局とも協議しながら、検討を行う必要がある。

会員：

公園整備について、芝は管理するのに費用も手間もかかる。いまの子供は芝よりも土が好きなのではないか。岡山には市内に山も田んぼもあるので、あえて公園に山のような造形をつくる必要はないのではないか。

事務局：

新しい公園はまちなかの緑の公園を想定しているが、まちなかの公園としてどうあるべきか、使い方や維持管理も含め検討していく。

——資料3 新庁舎に求められる性能について——

会員：

ユニバーサルデザインへの配慮ということで、多目的トイレの事例が挙げられているが、フル装備のトイレを設けたら終わりというのではなく、適切に機能分散をしていくことも必要ではないか。例えば、いろんな機器を配置した結果、便器から子ども用のベビーチェアに手が届かなくなってしまうこともある。車いすに配慮した記載台も前から入るのではなく、回って入るほうが入りやすい。細かいところまで気を使ったユニバーサルデザインにしてほしい。多目的トイレは視覚障がい者の方は盲導犬と一緒にいる場合以外ではほとんど使わない。

事務局：

施設整備の際に、障がい者の方々に委員として意見を伺う会議がある。この新庁舎整備においても検討をしていく。

会員：

できるだけたくさんの方の意見を聞き、声を出せない方の意見も盛り込んでほしい。

会員：

免震・制振構造について詳しく説明してほしい。

事務局：

熊本地震では長周期振動などが問題になっている。免震構造に制振装置を組み合わせるなどの検討をしていく。実際には時刻歴応答解析などを行い、構造設計者とのような構造を採用するかを決めていく。

会員：

建物の寿命についての想定はあるか。

事務局：

建物は長寿命化を図っていく。ライフサイクルコストにおいては、一般的に言われる65年よりも長寿命化をし、80年で試算をしている。費用対効果や初期コストも含め検討をしていく。

——資料4 将来を見据えた庁舎計画について——

会員：

ICT・AI技術の進展によるスペースの不足を解消するために人のスペースを犠牲にするという考えは良くない。逆に、技術の進歩により将来は情報通信のためのスペースが減る可能性もある。この場所を市民のために使えるというのが自然ではないか。将来にわたって人を大事にするという姿勢を大事にしていきたい。

会員：

以前では災害と言われていなかったことも災害レベル・災害級となってきている。気象状況など、災害の想定をもう少し幅広く持ち、日常レベルで市民が不安を抱えることに対して柔軟にサポートすることを考えていけば、具体的に必要な機能が見えてくるのではないか。

会員：

将来の余剰スペースを今から民間事業者に貸し付けるという考えには賛同できない。貸すにしても、まずは各種関係団体からだろう。

事務局：

用途転用の可能性は何十年も先の話で、新庁舎を将来も有効に使えるという趣旨である。

会員：

現状では、市の仕事をしている関係団体は公民館などを活動スペースとして使用しているが、使えないフロアがあったり、駐車場がなかったりするなどの問題がある。

事務局：

協働のスペースや会議室を整備するなど、関係団体の方も使いやすいように協議をしていく。

### 3 議題（3）その他

意見なし

#### 4 閉会

司会：

次回の検討会は11月頃を予定している。

<終了>